



岩船米づくり情報 No.1

平成28年2月
岩船米技術者会議
村上農業普及指導センター
岩船米改良協会

岩船米は、皆さんの誇り！ 地域の宝もの！

全量1等米を目指しましょう！

●岩船米コシヒカリの目標

管内品質・食味格差の是正

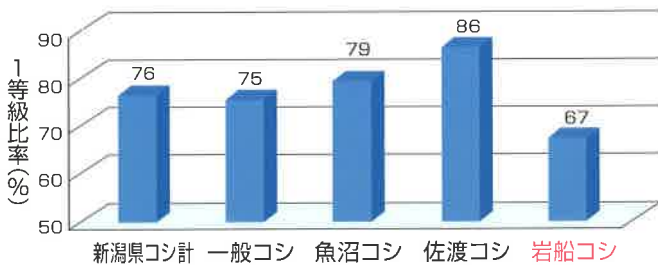
1等級比率95%、玄米タンパク5.5%~6.0%



「岩船米」が日本一を目指すブランドとして、消費者・実需者の信頼を得ていくためには、地域全体で品質の優れたおいしい米を生産していかなければなりません。

平成28年産「岩船米」は、全量1等米を目指し、時期毎の栽培ポイントをしっかりとらえて、取り組んでいきましょう!!

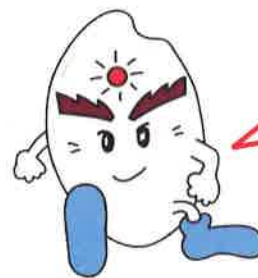
1 まず現実を受け止めて



H27産コシヒカリの1等級比率 (%) H27.12月末現在 農産物検査協会

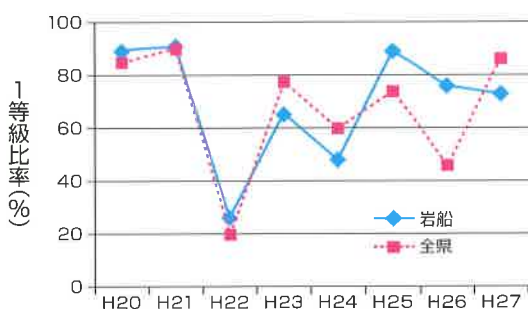
岩船産コシヒカリの1等級比率は、県内4区分の中では最も低い結果となりました。

なかでも荒川流域では台風被害を受け、品質低下が見られました。



各地区ごとに
目標の95%を
達成しましょう!!

2 品質ムラをなくそう



コシヒカリ1等級比率の推移

近年、岩船産コシヒカリの品質は不安定です。平成22年の品質低下以降は回復しましたが、1等級比率が80%を上回ったのは1年しかありません。

品質ムラのない安定したお米を供給することが、産地の信頼につながります。

平成27年産米の格落ち要因

平成27年産米の格落ち要因は、①「除青未熟」によるものが最も多く、格落ちの6割以上を占めています。また、台風に伴う強風被害で②「心白粒」の発生が2番目に多く、次いで日照不足による③「青未熟粒」、山間部ではカメムシによる④「部分カメ」の発生も目立ちました。

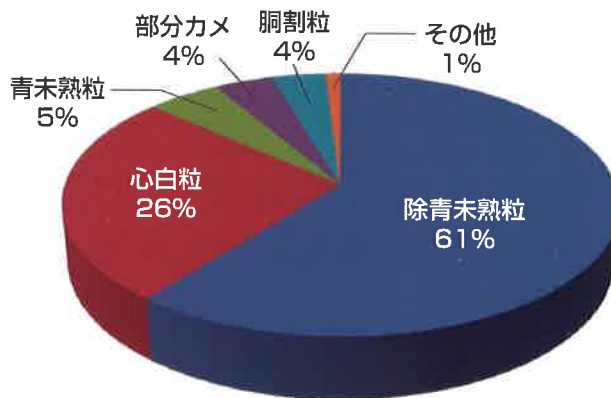
◆主な格落ちと発生要因・対策

「除青未熟」については、土づくり不足、籾数過剰、根の活力低下などによる後期栄養不足が大きな原因となっています。

また、山間部では「斑点米」による格落ちが多く、草刈りの徹底や薬剤の適期防除により水田へのカメムシ侵入を防ぐ対策が必要です。

平成28年の重点対策を実施して、異常気象に対応できる稲作りを進めることが大切です。

コシヒカリの格落ち要因



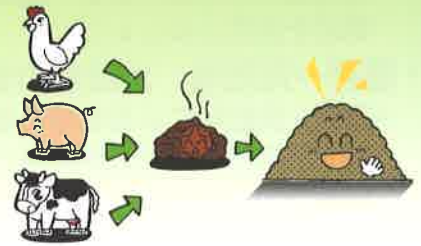
※比率は格落ち数量に占める割合（10月末日現在）

格落ち要因	主な発生地域	発生要因	発生防止対策
除青未熟粒 (ヤセ米) 【61%】	・ 全域で主要因 ・ 特に荒川で多発	・ 籾数過剰 ・ 地力不足等に伴う後期栄養不足 ・ 根の活力低下 ・ 登熟期の水分不足	・ 適期中干し等による適正生育量の確保 ・ 土壌分析結果に基づく土づくりの実施 ・ 出穂後25日まで飽水管理 ・ 高温時の緊急追肥 ・ ごま葉枯病防除
心白粒 (乳白を含む) 【26%】	・ 荒川流域（荒川、関川、神林）で強風による被害地域と一致する	・ 籾数過多 ・ 登熟初期の日照不足 ・ 登熟期のフェーンによる発育障害	・ 作土深15cmの確保 ・ ケイ酸肥料で土づくり ・ 籾数過多にならない生育調節 ・ 初期生育の確保（好天日田植） ・ 天気予報に注意し、台風の接近に備え、あらかじめ灌水
青未熟粒 【5%】	・ 朝日、関川、神林で発生割合が高め	・ 籾数過剰 ・ 早刈り ・ 日照不足、低温	・ 籾数過多にならないよう生育調整 ・ 適期刈り取り ・ 適正な穂肥対応
部分カメ (斑点米) 【4%】	・ 関川村、朝日の山間部で発生割合が高い	・ 農道、畦畔等の雑草繁茂 ・ 薬剤防除の不徹底 ・ 水田内のヒエ、ホタルイにカメムシが誘引	・ 出穂前の草刈りの徹底 ・ 粉剤・液剤による2回防除又は粒剤による1回防除の徹底 ・ 水田内の雑草の取りこぼしをなくす

平成28年産米の品質向上に向けた重点技術対策

①異常気象に対応できる「土づくり」の実施

- ・ 土壌診断に基づいた堆肥や土づくり肥料の積極的施用
→ほとんどの地域で不足してるケイ酸を補って高温登熟に強い稲作りを進めましょう
- ・ 作土層増加のための深耕（目標15cm）
→根域を広げ、変動気象に強い稲を育てましょう



②初期生育を良くし適正生育量の確保

- ・ 健苗育成（乾籾130～140g/箱、老化苗防止、弁当肥）
→薄まきと適切な温度・水管理で、健苗を作りましょう
- ・ 適正な栽植密度の確保
→ほ場条件や品種に応じた適切な栽植密度で植えましょう
コシヒカリ：50～60株/坪、こしいぶき：60～70株/坪
- ・ ワキやアオミドロ・表層はく離の対策（夜干し、除草剤の適期使用）
→水の更新や夜間落水で、ワキによる生育抑制を防止しましょう



③8月10日以降の出穂期を意識した適期播種・田植え

- ・ 4月15日頃以降の播種（コシヒカリ）
→播種が早いと苗の葉齢が進み、出穂も早まるので4月15日頃以降の播種としましょう
- ・ 5月10日頃以降の田植え徹底（コシヒカリ）
→コシヒカリでは、早植えによる過剰生育や8月初旬の高温時期での出穂を避けるため、5月10日頃以降の田植えを行いましょう



【ワンポイント】地力の低いほ場は、鶏ふんでチッソ補給

「どうも初期生育が不足」でも「化学肥料は増やせないしなあ」という方は、鶏ふんを使ってみましょう。

●ポイント1●

施肥量は、チッソ成分1kg相当が鶏ふん約75kg。
比較的速効性があります。

●ポイント2●

春散布がベストです。
秋散布では肥料成分が失われやすいです。

●ポイント3●

表層はく離がでたら、水の入れ替えを。

これで初期生育は
バッチリ。
適期中干しも
できます。



④適正な肥培管理による後期栄養確保

- ・生育診断に基づく的確な穂肥対応
→各ほ場について、草丈・莖数・葉色等に基づいた生育診断を行って穂肥を施用しましょう
- ・基肥一発栽培 出穂前の葉色が薄い場合の追肥
→基肥一発肥料による栽培の場合も、出穂前の生育診断を行って葉色が薄い場合や高温気象の場合は品質を確保するため追肥を実施しましょう



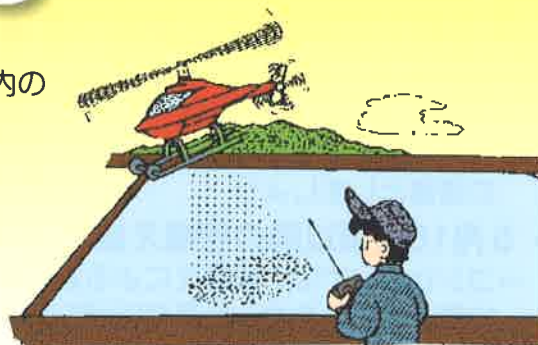
⑤適切な水管理による収量・品質の安定化

- ・生育診断に基づく適期中干し実施
→田植え後1ヶ月をメドに落水し、中干しを開始しましょう
→様々な効果が期待できる溝切りは、全ほ場で実施しましょう
→中干しは出穂1ヶ月前までに終了しましょう
- ・登熟期の飽水管理と出穂後25日以降の落水
→出穂前25日から出穂後25日にかけては、ほ場を乾かさないう「飽水管理」を行いましょ
→湿田では、時々水の更新を行って根腐れを防止しましょう



⑥病害虫防除の徹底

- ・カメムシ
→「畦畔雑草の草刈りと適切な薬剤防除の徹底」と「水田内のヒエ、ホタルイの除去」を徹底しましょう
- ・ごま葉枯病
→常発地では薬剤防除を行いましょ
- ・いもち病
→多発生地やコシヒカリB L以外の品種は、予防剤の箱施用等を行いましょ
- ・紋枯病
→昨年、多発したほ場では薬剤防除を行いましょ



⑦適期刈り取り

- ・出穂期の把握と積算気温によるめやすの活用
→ほ場ごとの出穂期を把握し、出穂後の積算気温等を参考に、適期収穫に努めましょ
→登熟期間が高温の場合は、平年より2日程度早く収穫ましょ
- ・ごま葉枯病による穂枯れほ場は刈り遅れしない
→刈り遅れによる胴割れの発生を防止ましょ



地域一丸となった取り組みで、全量1等米を目指ましょ!

～ お問い合わせは、お近くのJAや普及センターへ～